

障害児も簡単プログラミング

熊本高専、ドコモなど 教材開発で協定



プログラミング教育に関する連携協定を結んだ
(左から)高松洋・熊本高専校長、根本浩二・
NTTドコモ九州支社長、町田直・NTTコ
ミュニケーションズ九州支社長＝6日、合志市

熊本高専(合志市と八代市)とNTTドコモ九州支社(福岡市)、NTTコミュニケーションズ九州支社(同)は6日、子どものプログラミング教育で相互協力する協定を締結した。障害のある子どもも簡単に操作できるプログラミング教材を開発する。

小型ロボット「エムボット」がベース。同校が障害者向けに開発したスイッチ型の機器と組み合わせることで、パソコンのキーボードをつまみ扱えなくてもプログラミングを楽しくめるように改良する。

完成後は、同校の学生が黒石原支援学校(合志市)の子どもたちに教材を使ってプログラミングを指導。障害の有無にかかわらず、

子どもが参加するイベントも開催する。

同市の同校熊本キャンパスで締結式があり、高松洋校長は「子どもたちにプログラミングの経験をしてもらうための協定だが、学生にとっても良い経験になると期待している」とあいさ

つ。NTTドコモ九州支社の根本浩二支社長は「子どもたちの成長や自由な発想を後押しするイベントを企画したい」と話した。

(豊田宏美)